

『紅葉を訪ねて： 平林寺』

平林寺散策報告 (2022年12月04日(日))

紅葉の名所の「平林寺」に出掛けることにしたが、日曜日が詰まっていた、12月の今日になってしまった。参加は伊藤さんと小生の二名のみ。それでも今日は快晴の好天気になった。

東武東上線の志木駅からバスで行くことにして、9時40分に志木駅改札口前での待ち合わせ。少し早く駅で合流したが、バスの本数が少なく予定の9時47分発となり、10時に「平林寺」に到着した。

入口で「入山券」(金鳳山)を¥500払う。参拝客はそれほど多くはない。「総門」を入るともうあちこちに綺麗だが少し草臥れたに紅葉が出迎えてくれた。「山門」をくぐり、「仏殿」で拝礼する。(しかし「中門」、「本堂」を含む「林泉境内」には入れない。)

案内図の順路に従って進むと林の中に平成天皇(現上皇)が2度行啓された旨の看板があった。上皇は「武蔵野の森は非常に貴重なので大切に維持するように」とのお言葉があったと。ここの境内林は「雑木林」としては唯一「国指定天然記念物」に指定されている。ちっちゃな「平林寺堀(野火止用水)」を渡って、「大河内松平家廟所」へ向かう。この廟所は川越藩主松平伊豆守信綱の一族の墓所である。石の堀に囲まれた立派な墓所であった。

廟所を過ぎ、うっそうとした雑木林の中に踏み入る、右手は杉檜の針葉樹林、左手はコナラ、クヌギの明るい広葉樹林を北方向に進むが、その先の道は“枯れ枝の落下、倒木の危険がある”ので進入禁止になっていた。その前(北端)まで行って引き返す。高さ5m程の円錐台の塚:「野火止塚」の周りは広場になっていて、明るく紅葉の木も目立つ。

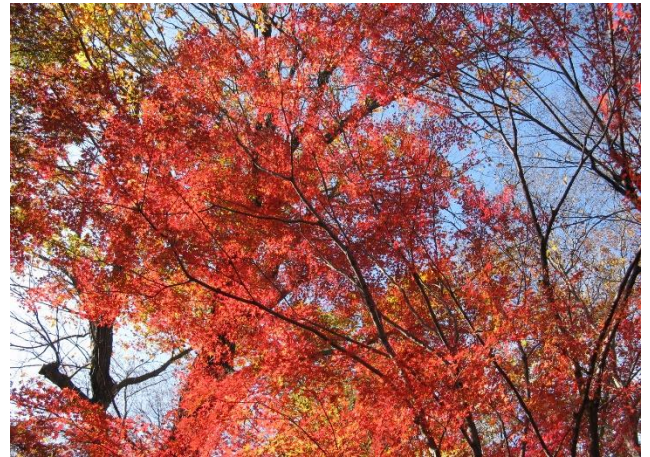
更に進むと明るい広場があり、人も紅葉も賑やかだった。南端まで行ってから出口の方へ戻って来た。紅葉はまだ綺麗に色付いている木々もあるが、全体的には既に盛りを過ぎて既に枯れている葉も多い。まだ緑色のモミジの葉もあるが、これらは赤くならず黄色になったら落ちて行くのだろう。

それでも1時間強の散策の後、11時15分門を出て11時20分発のバスで志木駅へ戻り、駅南口近くの「サイゼリア」で昼食兼反省会を行った。初めは最近の裾野市の児童施設の虐待問題やコロナ禍の今後の対応など、現在の世情の不安定さに対する話題などだったが、その後は真面目に伊藤リーダーに来年の山行の抱負などをインタビューした。「来年1月には、“浅草七福神巡り”、新年山行として“吾妻山”、そして平日に“水仙ロード”などを考えている。なんとか予め3ヶ月分位は計画を立てて提示したい。まあ月に山行2回、簡単な歩き2回できればね。しっかり計画を立てれば、皆さんに参加してもらえませんか」『期待してます』『暖かくなれば“筑波山の梅見、カタクリ”など』『スノーシューなどはどうですか』『そう言えば以前成清さんから“谷川岳麓でのスノーシュー”が提案されていた、シューを借りると送迎を頼む必要があるし、一泊になるね』『三浦さんは“美ヶ原”へ行ったそうです』『先週の“武甲山”山行ではタクシーの予約で、なかなかOKが取れず、まあ出たとこ勝負で解決したけど。一人だったらギブアップしていたかもしれないが、グループ山行では簡単に止める訳にはいかなから、ここが良い点です』等など頼もしく又含蓄深いお話でした。13時半に店を出て駅で解散した。

以上 陽田



紅葉真っ盛り(1)



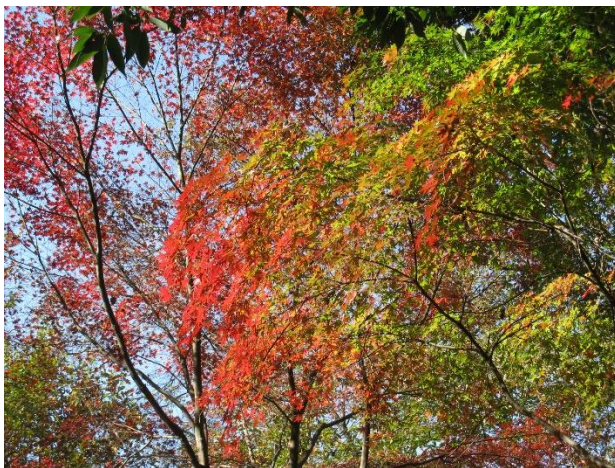
紅葉真っ盛り(2)



武蔵野の風情と紅葉の風景(1)



武蔵野の風情と紅葉の風景(2)



紅葉・黄葉・緑葉のグラデーション



野火止塚